



生涯充実して暮らせる都市を創る

Q ① 子宝条例は全国に誇れる施策であったが、途中から祝金が減額されてきた。人口が減っていく市の将来を考え、子どもに対する施策を考え、地元に住める対策を考えてほしい。
(西本梅小学校)

A ① 子育て祝金は減額してきましたが、子育て支援のための制度や相談業務、保育所の施設整備などを総合的に取り組んでいくための子育て支援課の設置などに取り組んできました。人口増や定住促進策は、JR山陰本線の複線化や京都縦貫自動車道整備を踏まえながら、工場誘致などで定住者を増やすよう努力しています。

(教育長) 子どもたちの命を守る取り組みは何よりも大切で、地域社会・登下校時・学校内での安全は、みんなが子どもに目を向けることで守っていかねばなりません。地域では見守り隊などでお世話になっていますが、市内全域に即時の情報伝達ができる体制整備や、子ども安心メールの

構築により、保護者などに瞬時に情報提供することで子どもを守る機運を地域社会の中にも育てよう努めています。

Q ② 八木町内の小学校の統合について一定の考えがあるのか。また住民の声をどのように反映させるのか。
(八木公民館)

A ② (教育長) 市内には17の小学校があり、今年度は1,692人の在籍児童がいますが、今後4年間で約220人減少すると予測され、八木町内だけでなく全市的な問題です。持てる力を発揮できるための学校環境は、学校現場でも町内の学校単位で相談しながら隣の学校と共同で修学旅行や文化鑑賞事業、交流学習を実施するなど、小集団や大集団の良さについて検証する取り組みを行っています。また、保護者の声を聞くため小学校・中学校を合わせた21校の市PTA連絡協議会代表者と教育委員会との懇談会も実施し、11月には地域

代表の学校評議員と教育委員会で意見交流する予定です。

Q ③ 以前、学校の校長先生の話を聞いた時、子どもたちには知らない人とは話さないように指導しているということだった。年寄りにとっては子どもたちの優しい言葉や笑顔がうれしい。あいさつを交わすことの大切さを教え、地域の子は地域で守っていききたい。
(日吉市民センター)

A ③ (教育長) 南丹市内の幼・小・中学校すべてにおいて、近所の方には気持ちの良いあいさつや返事ができるようにあいさつ運動を実施しています。ただし、知らない人に声を掛けられなくてもついて行かないように子どもの危険予防のための指導はしています。これからも地域の方からは積極的に声を掛けてください。

Q ④ 中学校の授業が終わってすぐに乗って帰るバスがないため、親が迎えに行っている。学校の終業時間に合わせたスクールバス運行をしてほしい。
(八木神吉地区自治振興会館)